

心地よい秋はどこへやら、図書館では早くもひざ掛けが恋しいこの頃です。でもまだ文化祭の楽しさがちょっぴり残っていて、Yのマークの入ったグッズを手にするたびに、あのワクワクした気持ちがよみがえります。片付けの日に図書館のゴミを出しに外に出ると、遠くのコンテナから元気に走ってきた生徒がゴミの袋を颯爽と預かってくれました。片付けの最後まで、Y校生は爽やかです。気持ちもスッキリしたところで『人生がときめく片づけの魔法』近藤麻理恵(597 コ)を参考に、おうちもスッキリさせようと思っています。 司書

## ☂️ アンブレラプロジェクトの傘が野毛山動物園へ! ☂️

文化祭でプールと校舎の間に素敵な異空間を生み出していたアンブレラプロジェクトの傘が、野毛山動物園で、突然の雨の日にご利用してもらえることになりました。文化祭後にも良い活用方法をと、プロジェクトの企画段階からY校祭の全体装飾係が案を練って実現したアイデアです。あの傘に出会いに、わざわざ雨が降りそうな日に野毛山動物園に行きたくなります。まずは図書館にたくさんある動物の本で予習をしてから、野毛山動物園にくり出しませんか。タイトルだけでも面白い動物関連本がたくさんあります。



- 牛田一成『ゴリラの森でうんちを拾う』(481 ウ)
- 川上和人『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ』(488 カ)
- 戸川幸夫『高安犬物語／爪王』(080 チ書庫)
- 黒柳徹子『読むパンダ』(489 ク)      ○郡司芽久『キリン解剖記』(489 グ)
- フランス・ドゥ・ヴァール『あなたのなかのサル』(489 ヴ)
- V・B・マイヤーロホ『動物たちの奇行には理由がある』(481 マ)
- スティーブ・ブルーム『動物たちの惑星』(480 ブ)
- 柳澤静磨『「ゴキブリ嫌い」だったけどゴキブリ研究はじめました』(486 ヤ)
- Zoo trip『動物園めぐり』(480 ジ)      ○増田今雄『希少種は今』(462 マ)
- 今泉忠明『ざんねないいきもの事典シリーズ』(480 イ)
- 堀川大樹『クマムシ博士の「最強生物」学講座(私が愛した生きものたち)』(460 ホ)
- ベス・シャピロ『マンモスのつくりかた』(467 シ)
- 白輪剛史『パンダを自宅で飼う方法(珍獣ペット化シミュレーション)』(480 シ文庫)
- 稲垣栄洋『身近な生きものの子育て奮闘記(育児上手なオスはモテる!)』(481 イ文庫)
- 進啓士郎『世界一かわいいエゾモモンガ』(748 シ)      ○招き猫亭『猫まみれ』(708 ネ)
- 岩合光昭『野生動物カメラマン』(480 イ新書)
- 實吉達郎『おもしろすぎる動物記』(480 サ新書)
- 本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間(サイズの生物学)』(481 モ新書)
- 前野ウルド浩太郎『バッタを倒しにアフリカへ』(486 マ新書)
- 鈴木晃『オラウータンの不思議社会』(489 ス新書)
- スミソニアン協会『グレートネイチャー生きもの不思議大図鑑』(460 ド大型本)
- ナターシャ・ムーザー『世界の夢の動物園』(523 ム大型本)



## □ 「Y校別科」をご存知ですか □

Y校から歩いて2、30分の磯子区丸山にあるY校別科は、県唯一の公立理容師・美容師養成校です。毎週の朝礼で「さかゆくみ～よのたみぐさわれら～」と校歌を斉唱している私達の仲間のいる学校の図書室に、先日お邪魔してきました。居心地の良さそうな明るい図書室には、美容・理容関係の本だけでなく、接客のスキルを高める本や、百科事典や小説、文学全集など、あらゆるジャンルの魅力的な本がいっぱいです。



校内の様子も見学させていただきました。まずは理容科。一人にひとつずつある練習用のモデルウィッグを前に、生徒たちが真剣な表情でカットの練習に取り組んでいます。先生のお手本はさすがで、それを目標に皆少しずつハサミを進め、満足そうに出来上がりを眺める生徒、納得いかずに何度も手直ししている生徒など、どの姿もひたむきで、熱気と活気に溢れています。美容の部屋では編み込みやアップなどのアレンジを生き活きとしている生徒、丁寧にウィッグのシャンプーをしている生徒がいました。どの生徒も、やっぱりY校生、挨拶が爽やかです。校内はどこもキレイで清潔感があり、機材もピカピカです。高級そうなエステの機材がズラリと並び、着付けの授業のための畳敷きの広々とした部屋は、一面が大きな鏡張り、もう一面には婚礼衣装や振袖などがびっしり詰まった桐の引き出しがズラリと並んでいます。お茶室もあり、ここで模擬結婚式を開いた様子も写真で拝見しました。ネイルやメイクの授業もあるという話に、喜んで練習台になります！と志願したくなりました。



## □ 今月のおすすめ本 □

○綿矢りさ『嫌いなら呼ぶなよ』（913.6ワ）

高校在学中に『インストール』でデビュー、早稲田大学在学中の2004年に『蹴りたい背中』で芥川賞を史上最年少で受賞した綿矢りさの最新作は、毒でいっぱいだけれど不思議なエネルギーに溢れています。水玉が飛んだピンク色の装丁がパッと目を引く短編集は中身も衝撃的で、本音って、こんなにさらけだしちゃっていいんだ！と、吹っ切れた気持ちになる本です。「眼帯のミニマウス」は、整形したことをちらっとカミングアウトしたら周りは…。「神田タ」は、憧れのYouTuberに応援の気持ちで思ったことをアレコレと（執拗に）コメントしていたらバイト先に本物が…。「嫌いなら呼ぶなよ」は、妻とその友人たちに不倫の事実を責められ吊るし上げられ…。「老は害で若も輩」は、インタビュー記事を書いたライターさんと若き編集者と作家（本人設定？）とのリアルなまでのバトル…。気の小さい私は、文章に表すときですら、いらぬ付度をしてしまいがちなのに、この本の中では爽快なまでにズバズバと言いたいことを言っている人が出てきて、そして心中の表現だとしても、ここまで言っちゃっていいのか？と思って読んでいるうちに、変な勇気が湧いてきます

Y校は今年140周年





# Y校アーカイブ vol. 13 「Y校創立七十周年記念祭プログラム」

今年がY校創立140周年です。今回のY校アーカイブでは、その半分の、70周年のときの文化祭の様子がわかる、「Y校創立七十周年記念祭プログラム」を紹介します。

昭和27年11月8日より11日まで、4日間にわたって開催された文化祭は、戦後間もないこともあってか、初日の午前中には慰霊祭が行われています。午後は70周年の記念式典が行われ、2日目以降は校内を3つの会場に分けてさまざまな企画が催されています。

第一会場の講堂では、劇や音楽関係の発表だけでなく、先生方の講演会も行われています。第二会場は文科系の部活動の発表を中心に、普段の学びの成果の発表の場にもなっていたようです。第三会場では卓球、テニス、バレーボール、バドミントン、軟式野球、サッカー、ホッケー、硬式野球、ラグビーの試合が行われています。広告が54件も掲載されていて、Y校が地域と深くかかわっていたことが感じられました。



七十周年を迎えたことが新聞記事になっています  
毎日新聞 昭和二十七年四月十日付